麻しん（はしか）について

平成30年3月23日、沖縄県内を旅行中の台湾からの旅行客が麻しんと診断されました。以降、この患者と接触歴のあった二次感染例を中心に沖縄県内では麻しん患者の発生が続いています。4月25日現在発症している患者数は86例であり、年齢は0歳～55歳。都道府県別では沖縄59例、東京8例その他関東、中部、関西、九州に発症例が報告されていますが、四国ではまだありません。

麻しんは空気感染する感染力の強いウィルス感染です。潜伏期間は10～12日間で咳、鼻水、くしゃみ等の風邪症状が出現、2～4日ほど続きます。その後、39度を超える高熱と発疹が出現します。発疹の出現する1日から2日前には頬の粘膜にやや隆起した1㎜程度の白色の小さな斑点が出現します。しかし、「修飾麻しん」と言って抗体が低下しているワクチン既接種者は上記の症状が見られるものの、一つ一つが軽症であったり、症状の一部を欠いたりすることが多く全体として軽症の経過をとることがあります。そのため、麻しんと診断することが困難であり、感染力が弱いものの周囲の人への感染源となるので注意が必要です。合併症は肺炎、脳炎等で年齢を問わず死亡することもありますが、合併症を引き起こさなければ7～10日後には回復します。しかし、免疫力が低下するため、しばらくは他の感染症にかかりやすく、また体力等が戻ってくるには1ヵ月程度を要することもあります。

当院でも二次感染を防ぐために、疑いのある患者様は別室で待機していただくようにしました。また、患者様に携わる医師、外来看護師、受付職員は麻しん抗体を調べ、抗体のない場合はワクチンを接種し、広がらない、移さない体制を整えています。

麻しんは予防接種により感染リスクが少なくなる疾患です。定期接種の対象者は必ず受けることと、国内・外（特に沖縄県）への旅行予定がある方でワクチン接種を2回行っていない場合は抗体を調べることをお勧めします。特に26歳～39歳の方は当時の国の方針で1回しかワクチンを接種していない、又は1回も接種出来ていない方がいます。

発熱、発疹など、麻しんが疑われる症状が見られた場合には、事前に病院に連絡してから受診することをお願いします。

（外来看護師長　明坂　由美）

さめうらのバラ園が新聞に掲載されました

プロジェクトを開始して3年目を迎えるバラ園ですが、今年は特にたくさんの花が咲きました。毎年新しい品種を追加しており、昨年は10種類以上のバラを本場のイギリスなどから取り寄せました。この辺りではなかなか見られない品種もたくさんあります。下記の敷地図を参考に、お気軽にお立ちよりください。

早明浦病院　バラ見頃

60本　利用者の癒やしに

土佐町

【嶺北】土佐郡土佐町田井の早明浦病院（古賀義孝院長）敷地内の小さなバラ園が見頃を迎え、さわやかな香りに包まれている。一本一本種類の違う約60本のバラを見に訪れた人は「気持ちが明るくなる」と癒やされている。

早明浦病院では病院や、併設する介護老人保健施設の利用者、地域の人に楽しんでもらおうと昨年から、少しずつ本数を増やしてきた。

赤やピンク、黄、白などの色や大きさがそれぞれ違うバラは、4～5月と6月ごろに咲くが、冬咲きの品種（特に

▲5月18日付け高知新聞より

●6月のさめうらギャラリーは信清淑子様作品展を開催●

お詫び●竜野真維先生ブータン写真展は都合により延期となりました。9月頃開催予定

高知大学医学部外科学（外科2）講座　心臓血管外科

渡橋（おりはし）和政教授が外来診療を行います

胸部に不安な症状がある方、下肢静脈瘤がある方は受診をお勧めします。

6/16（土）
PM2:00 ～ 4:00

糖尿病教室

糖尿病について知識を広めたい方どなたでも無料で参加できます。

6/27（水）
時間：PM1:00 ～
場所：5階会議室
講師：上田圭介先生